

大学番号：私373

注3

[平成25年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

相愛大学 人文学部 人文学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 相愛学園
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名

電話番号 06-6612-5902

（夜間） 06-6612-5900

F A X 06-6612-2994

e-mail g-shitsu@soai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等-----	1
2	授業科目の概要-----	6
3	施設・設備の整備状況，経費-----	14
4	既設大学等の状況-----	15
5	教員組織の状況-----	16
6	留意事項に対する履行状況等-----	27
7	その他全般的事項-----	28
	別紙1-----	31
	別紙2-----	32

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 相 愛 学 園

(2) 大学名

相 愛 大 学

(3) 大学の位置

〒559-0033 大阪府大阪市住之江区南港中4丁目4番1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	届 出 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(カネコ サトル) 金 児 暁 嗣 (平成24年1月)		
学 長	(カネコ サトル) 金 児 暁 嗣 (平成22年4月)		
学 部 長	(ヤマモト ユキオ) 山 本 幸 男 (平成22年4月)	(ハシモト ジュンイチロウ) 橋 元 淳 一 郎 (平成26年4月)	平成26年3月31日をもって任期満了のため(26)
学 科 長 等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)
平成26年度に報告する内容 → (26)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の 名称(学位)	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
人文学部 人文学科 学士(人文学)	4 年	90 人	— 年次 人	360 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 90 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 90 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 () () []	0.74倍				
志願者数	87 (-) [27]	- (-) [-]	96 (-) [35]	- (-) [-]	() () []					
受験者数	84 (-) [26]	- (-) [-]	93 (-) [35]	- (-) [-]	() () []					
合格者数	81 (-) [24]	- (-) [-]	90 (-) [32]	- (-) [-]	() () []					
B 入学者数	65 (-) [23]	- (-) [-]	69 (-) [28]	- (-) [-]	() () []					
入学定員超過率 B/A	0.72		0.76							

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入**してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学年	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[23] 65	[-] -	[28] 69	[-] -	[]	[]	[]	[]	
2年次	/		[20] 60	[-] -	[]	[]	[]	[]	
3年次			/		[]	[]	[]	[]	
4年次	/				[]	[]			
計			[23] 65		[48] 129		[]		[]

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	65 人	5 人	平成25年度	0 人	0 人	進路変更(1人)、家庭の都合(1人)、 除籍(3人)	7.7 %
			平成26年度	5 人	3 人		
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	69 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0 %
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
合 計	134 人	5 人					3.7 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<人文学部 人文学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目 基礎科目・共通科目（大学共通）												平成26年度入学生から科目区分を変更(26)		
	基本理念 (I群)	建学の精神	1前・後	2			1	1					兼5	
		仏教思想と現代	2前・後	2			+						兼5	専任教授から兼任講師に担当者変更(26)
		科学と人間	2前	2									兼1	平成26年度入学生から科目を廃止(26)
		環境と人間	2前	2									兼1	平成26年度入学生から科目を廃止(26)
		生命と人間	2後	2									兼1	平成26年度入学生から科目を廃止(26) 履修希望者がいなかったため(26)
	地域	大学と地域社会	1前・後	2			1							専任教授を追加(26) 平成26年度入学生から科目を追加(26)
		大阪学入門	2前	2									兼1	平成26年度入学生から科目を追加(26)
		まちづくり入門	2後	2									兼1	平成26年度入学生から科目を追加(26)
	キャリア	キャリアデザイン論	1前・後	2									兼1	平成26年度入学生より「共通科目①その他」から移行(26)
		キャリアデザイン演習	2後	2									兼1	平成26年度入学生より「共通科目①その他」から移行(26)
		インターンシップ実践 インターンシップ	3前 3前・後	2 +									兼1	平成26年度入学生より科目の名称・開設時期・単位数を変更し、「共通科目①その他」から移行(26)
	日本語スキル (II群)	大学生のための日本語入門	1前・後	2									兼4	
		文章表現 日本語表現法	2前・後	2									兼2	平成26年度入学生から科目の名称を変更(26)
	人文系	文学と人生	+	2			+							平成26年度は、未開講(26) 専任教授が退職したため削除(26)
		音楽の楽しみ	2後 2前	2									兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26)
		西洋美術史	2前	2			1							
		西洋文化史	1前	2									兼1	
		美学	1後	2									兼1	
		日本歴史入門	1前	2									兼1	
		世界歴史入門	2後	2										平成26年度は、未開講(26)
		地理学入門（地誌を含む）	1後	2									兼1	
		倫理学入門	1前	2									兼1	
心理学入門		1後	2									兼1		
共通科目①		社会学概説	1後 +前後 +後	2									兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26) 開講時期適正化のため前期に変更(25)
		社会と芸術	1前 +後	2			1							開講時期適正化のため前期に変更(26)
社会科学系		経済学入門	1前 +後 +前	2			1							開講時期適正化のため前期に変更(26) 開講時期適正化のため後期に変更(25)
		経営学入門	2前	2									兼1	
	マーケティング入門	2後	2										平成26年度は、未開講(26)	
	観光学入門	2前	2									兼1		
	政治学入門	1前 +後 未開講 +後	2									兼1	履修希望者がいなかったため(26) 開講時期適正化のため前期に変更(26) 通常開講(26) 平成25年度は未開講(25)	
	法学入門	1前	2									兼1		
	日本国憲法	1前・後 +後	2									兼2	開講時期を前期と後期に変更(25)	
教育原論	1前・後	2									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目・共通科目(大学共通)	自然科学系	数学入門	2前 2後	2								兼1	開講時期適正化のため前期に変更(26)	
		地球と宇宙	1前 1後	2								兼1	開講時期適正化のため前期に変更(25)	
		物理学入門	1後	2								兼1		
		科学史入門	1前	2								兼1		
		化学入門	1後	2								兼1		
		生物学入門	1前	2								兼1		
		現代と医学	2後	2								兼1		
	共通科目①	健康科学系	看護介護入門	1後 未開講 1後	2								兼1	通常開講(26) 履修希望者がいなかったため(25)
			健康科学	2前・後 2前	2			1					兼1	開講時期を前期と後期に変更(26)
		健康とスポーツ実習	1前・後	1									兼3	
		生涯健康とスポーツ実習	2前 2前・後	1								兼1	開講時期を前期に変更(26)	
		キャリアデザイン論	1前 1後	2								兼1	平成26年度入学生から「基礎科目キャリア」へ移行(26) 開講時期適正化のため前期に変更(25)	
		キャリアデザイン演習	2後	2								兼1	平成26年度入学生から「基礎科目キャリア」へ移行(26)	
		インターンシップ	3前・後	1								兼1	平成26年度入学生から「基礎科目キャリア」へ移行(26)	
		その他	情報処理演習	1前・後	2				1				兼3	履修希望者に合わせクラス数を削減(26) クラス数増加に伴い担当者を追加(25)
			情報と社会	1前	2								兼1	
			生涯学習概論	1前	2								兼1	
			図書館概論	1前	2								兼1	
			ボランティア論	2前	2								兼1	
			ボランティア体験	2後	1								兼1	
			音楽実技	1後 1前・後	1								兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26)
			教職入門 学校と教師	2前・後	2								兼1	文部科学省教職員課の指導により科目名称変更(25)
	人権教育		2前・後	2			1	1				兼1	職位変更(26)	
	異文化間教育論		2後	2								兼1		
	共通科目②	語学関係Ⅰ	宗門法規	2前	2								兼1	
			布教法	2後	2								兼1	
			勤式作法	2前 2後	2								兼1	開講時期適正化のため前期に変更(26)
			英会話Ⅰ	1前	2					1			兼5	専任講師が就任したため(26)
			英会話Ⅱ	1後	2					1			兼5	専任講師が就任したため(26)
			英会話Ⅲ	2前	2								兼1	履修希望者がいなかったため(26)
			英会話Ⅳ	2後	2								兼1	履修希望者がいなかったため(26)
			英語Ⅰ	1前	2								兼5	
英語Ⅱ			1後	2								兼5		
英語Ⅲ			2前	2								兼1	履修希望者がいなかったため(26)	
英語Ⅳ		2後	2								兼1	履修希望者がいなかったため(26)		
ドイツ語Ⅰ		1前	2								兼2			
ドイツ語Ⅱ		1後	2								兼2			
イタリア語Ⅰ		1前	2								兼2			
イタリア語Ⅱ		1後	2								兼2			
フランス語Ⅰ	1前	2								兼1				
フランス語Ⅱ	1後	2								兼1				
中国語Ⅰ	1前	2								兼1				
中国語Ⅱ	1後	2								兼1				
語学関係Ⅱ	資格英語ⅠA	1前 1前	2								兼1	履修希望者がいなかったため(26) 履修希望者がいなかったため(25)		
	資格英語ⅠB	1後 1後	2								兼1	履修希望者がいなかったため(26) 履修希望者がいなかったため(25)		
	資格英語ⅡA	1前 1前	2				1					履修希望者がいなかったため(26) 兼任講師から専任准教授に担当者変更(26) 履修希望者がいなかったため(25)		
	資格英語ⅡB	1後 1後	2				1					履修希望者がいなかったため(26) 兼任講師から専任准教授に担当者変更(26) 履修希望者がいなかったため(25)		
	資格英語ⅢA	2前	2			1	1					履修希望者がいなかったため(26) 専任准教授から専任教授に担当者変更(26)		
	資格英語ⅢB	2後	2			1	1					履修希望者がいなかったため(26) 専任准教授から専任教授に担当者変更(26)		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
ゼミナール科目	基礎演習 A	1 前	2			2	2					兼2 専任教授の退職等による担当者の変更(26) クラス数増加に伴い担当者を追加(26)
	基礎演習 B	1 後	2			1	2					兼1 クラス数増加に伴い担当者を追加(26) 専任准教授1名が就任辞退したため(25)
	専門基礎演習 A	2 前	2			1	1					兼1 専任准教授の昇任に伴う担当者の変更(26) 専任准教授1名が就任辞退したため(25)
	専門基礎演習 B	2 後	2			2	3					専任教授の退職等に伴う担当者の変更(26)
	専門応用演習 A	3 前	2			6	3					専任教授の退職等に伴う担当者の変更(26) 専任教授1名、専任准教授1名が就任辞退したため(25)
	専門応用演習 B	3 後	2			5	4					専任教授の退職等に伴う担当者の変更(26) 専任教授1名、専任准教授1名が就任辞退したため(25)
	専門研究演習	4 前	2			7	5					専任教授の退職等に伴う担当者の変更(26) 専任教授1名が就任辞退したため(25)
	卒業研究	4 後	2			7	5					専任教授の退職等に伴う担当者の変更(26) 専任教授1名が就任辞退したため(25)
専門科目	人文学概論	1 前	2			4	1					専任教授を追加(26) 職位変更(26)
	日本文化概論	1 前		2								兼1
	日本史入門	1 後		2			1					兼1 専任准教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	人間の心と行動	1 後 1 前		2								兼1 開講時期適正化のため後期に変更(25)
	宗教学概論 A	1 前		2			1					
	仏教学概論 A	1 前		2								兼1
	哲学概論	1 後		2								文部科学省教職員課の指導による区分変更 (専門関連科目へ移動)(25)
	現代社会論	1 後		2			1					
キャリア支援科目	主体的学習法	1 前	2			1	1					職位変更(26)
	プレゼンテーション演習	1 後		2			1					
	グループワーキング演習	2 前	2				1					
	社会人基礎力形成演習	2 後	2			1						兼任教授から専任教授に担当者変更(26)
	社会人基礎力実践	3 前		2			1					兼1 専任准教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	データ分析	3 後		2			1					職位変更(26)
	海外研修	1 前 1 後 未開講 1 後 1 前・後		2			1	1				専任教授が本人の都合により退職したため専任准教授が担当(26) 開講時期適正化のため前期に変更(26) 通常開講(26) 履修希望者がいなかったため(25) 開講時期を後期に変更(25) 専任教授1名が就任辞退したため(25)
専門関連科目	日本文学入門 1	1 前		2		1						
	日本文学入門 2	1 後		2								兼1
	日本古典文学史	2 前		2		1						兼任教授から専任教授に担当者変更(26)
	日本近代文学史	2 後		2		1	1					兼1 専任教授が本人の都合により退職したため専任准教授が担当(26)
	国語学概論	1 後		2								兼1
	国語史	2 前		2								兼1 文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成26年度開講(25)
	言語学概論	1 前 1 後		2								兼1 開講時期適正化のため前期に変更(26)
	日本文学概論	1 後		2		1						
	日本文学講読 A	2 後 2 前		2			1					開講時期適正化のため後期に変更(26) 専任准教授が担当(26) 文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成26年度開講(25)
	日本文学講読 B	2 前 2 後		2		1						開講時期適正化のため前期に変更(26) 専任教授が担当(26) 文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成26年度開講(25)
日本文学演習 A	3 前		2								文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成27年度開講(25)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 開 連 科 目	日本文学演習 B	3 後		2								文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成27年度開講(25)
	漢文学講読 A	1 前		2							兼1	
	漢文学講読 B	1 前 ± 後		2		1 ±						開講時期適正化のため前期に変更(26) 専任教授が担当(26) 専任教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	日本美術史	3 後		2							兼1	
	国語表現法	2 前		2							兼1	
	日本語プレゼンテーション	2 後 2 前		2							兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26) 文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成26年度開講(25)
	日本語教授法	3 前		2								文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成27年度開講(25)
	漢文学	1 後		2							兼1	
	漢文学史 A	2 前		2							兼1	
	漢文学史 B	2 後		2							兼1	
	書道 A	3 前		1							兼1	
	書道 B	3 後		1							兼1	
	国語学演習 A	3 前		2							兼1	
	国語学演習 B	3 後		2							兼1	
	文学と芸能	1 後		2							兼1	文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成25年度開講(25)
	日本文学と仏教	2 前 2 後		2							兼1	開講時期適正化のため前期に変更(26) 文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成26年度開講(25)
	映像と文学	3 前		2			1					兼任講師から専任准教授に担当者変更(26)
	浪速の文学	3 後		2							兼1	
	文化資料論 A (日本文学)	3 後		2		1						
	文化資料論 B (日本文学)	3 後		2		±	1				兼1	専任教授が本人の都合により退職したため専任准教授が担当(26)
	日本文学研究法	3 後		2								文部科学省教職員課の指導により新たに追加、平成27年度開講(25)
	日本文化特殊講義 (日本文学)	3 後		2		1						
	日本文化史 A	2 前		2		1						
	日本文化史 B	2 後		2		1						
	日中文化交流史	2 前		2		±						平成26年度は未開講(26) 専任教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	日中比較文化論	2 後		2		±						平成26年度は未開講(26) 専任教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	日本の哲学 A	1 前		2							兼1	
	日本の哲学 B	1 後		2							兼1	
	日本思想史	3 後		2			±				兼1	専任准教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	文化資料論 A (歴史文化)	3 前		2		1						
	文化資料論 B (歴史文化)	3 後		2		±					兼1	専任教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	日本文化特殊講義 (歴史文化)	3 後		2		1						
	大阪文化入門 A	2 後 2 前		2							兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26)
	大阪文化入門 B	2 後		2		1						
	サブカルチャー入門 A	1 前		2							兼1	
	サブカルチャー入門 B	1 後		2			1					
	中之島文化論	3 前		2		1						
	現代大阪文化論	2 前		2							兼1	
	大阪ビジネス論	2 後		2							兼1	
	上方落語論	3 後		2							兼1	
文化資料論 A (大阪文化)	3 前		2		1							
文化資料論 B (大阪文化)	3 後		2							兼1		
日本文化特殊講義 (大阪文化)	3 前		2							兼1		
日本の SF とバーチャル文化	3 前		2							兼1		
日本社会とメディア	3 前		2			1						
日本のアニメ文化	2 後 2 前		2			1					開講時期適正化のため後期に変更(26)	
日本漫画史	2 前 2 後		2							兼1	開講時期適正化のため前期に変更(26)	
文化資料論 A (サブカルチャー)	3 前		2							兼1		
文化資料論 B (サブカルチャー)	3 後		2			1						
日本文化特殊講義 (サブカルチャー)	3 後		2							兼1		
現代文明論	3 前		2							兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 関 連 科 目	宗教学概論B	1 後		2			1						
	仏教学概論B	1 後		2				1					
	哲学概論	1 後		2								兼1	文部科学省教職員課の指導による区分変更 (入門科目から移動)
	仏教と生活	2 前		2								兼3	
	パーリ語入門	2 前		2								兼1	
	サンスクリット語入門	2 後		2								兼1	
	宗教儀礼概論	1 後		2								兼1	
	宗教社会学	2 前		2								兼1	
	宗教史	2 前		2			1						
	仏教史	1 後 1 前		2								兼1	開講時期適正化のため後期に変更(25)
	真宗史	2 後		2								兼1	
	日本仏教史A	2 前		2								兼1	
	日本仏教史B	2 後		2								兼1	
	仏教思想論	3 前		2				1					
	宗教哲学	3 前		2				1					
	比較宗教学	2 後		2				+				兼1	専任准教授から兼任教授に担当者変更(26)
	宗教心理学	1 後		2								兼1	
	仏教と社会福祉	3 前		2								兼1	
	身体論	2 後		2								兼2	
	真宗学概論	1 後		2				1					
	真宗聖典学	2 前		2				1					
	宗教社会活動論	3 前		2								兼1	
	ビハーラ演習	3 後		2								兼1	
	真宗教学史・教団史	3 前		2								兼1	
	真宗儀礼演習	3 前		2								兼2	
	真宗学特殊講義	3 前		2				1					
	真宗伝道演習	3 後		2				1					
	寺院運営論	3 前		2			1						
	仏教文化講読1	2 後		2			+	1					専任教授から専任准教授に担当者変更(26)
	仏教文化講読2	3 後		2								兼1	
	仏教文化演習	3 後		2								兼3	
	アジアの仏教と社会	3 後		2								兼1	
	知覚心理学	2 後 2 前		2								兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26)
	学習心理学	2 後		2								兼1	
	カウンセリング演習Ⅰ	2 後		2			1						
	カウンセリング演習Ⅱ	3 後		2								兼1	
	心理学実験演習	2 前		2								兼1	
	心理学実習	3 後		2			2 +	1 +					准教授1名が教授に職位変更(26)
	カウンセリング実習	3 前		2								兼2	
	生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期)	2 前		2			1						
	生涯発達の臨床心理学 (児童期)	2 後		2								兼1	
	生涯発達の臨床心理学 (青年期)	3 前		2			1						
	生涯発達の臨床心理学 (成人・高齢期)	3 後		2								兼1	
	異常心理学	3 前		2								兼1	
	社会心理学	1 前		2				1					
人間関係論	2 前		2			1	+					職位変更(26)	
心理学研究法	2 前 2 後		2								兼1	開講時期適正化のため前期に変更(26)	
健康心理学	2 後		2				1						
心理統計学	2 前		2			1	+					職位変更(26)	
パーソナリティの心理学	1 後		2								兼1		
発達心理学概説	1 後		2			1							
カウンセリング論Ⅰ	2 前		2			1							
カウンセリング論Ⅱ	3 前		2								兼1		
精神分析学	3 後		2								兼1		
精神医学	3 前		2								兼1		
神経心理学	3 後		2								兼1		
家族心理学	3 前		2								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 関 連 科 目	グループダイナミクス	2 前		2			1						
	産業・組織心理学	2 後		2		1	+					職位変更(26)	
	消費者行動論	3 前		2								兼1	
	多文化社会論入門	1 前		2		1							
	ことばと文化	1 前		2		1							
	文化交流論	1 前		2				+				兼1	専任准教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	英米文化入門	1 後		2			1						
	文化人類学入門	1 後		2		1	+						専任教授が本人の都合により退職したため専任教授1名が担当(26)
	国際関係入門	1 前 1 後		2								兼1	開講時期適正化のため前期に変更(25)
	異文化間コミュニケーション	2 後		2			+		1				専任教授が本人の都合により退職したため専任講師が担当(26)
	英米文学概論	2 前		2				1					
	イギリスの社会と文化	2 後 2 前		2				1					開設時期適正化のため後期に変更(26)
	フィールドワーク論	2 後		2				1					
	スピーチとプレゼンテーション	2 前 2 後		2			+		1				開講時期を前期に変更(26) 専任教授が本人の都合により退職したため専任講師が担当(26)
	ビジネス英語	3 前		2			+		1				専任教授が本人の都合により退職したため専任講師が担当(26)
	コミュニケーション実践	3 前		2			+		1				専任教授が本人の都合により退職したため専任講師が担当(26)
	翻訳入門	2 前 2 後		2				1					開講時期適正化のため前期に変更(26)
	翻訳演習	3 前		2				1					
	通訳入門	2 前 2 後		2			1						開講時期適正化のため前期に変更(26)
	通訳演習	3 前		2			1						
	比較文化論	3 前		2				+				兼1	専任准教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)
	情報社会論	3 前		2				1					
	英米文学講読	3 後		2				1					
	文化交流実践	3 後		2			1						
	アメリカの社会と文化	3 前		2			+		1				専任教授が本人の都合により退職したため専任講師が担当(26)
	社会調査入門	1 前		2				1					
	現代社会論演習	2 後		2				1					
	マス・メディア論	1 後 1 前		2								兼1	履修希望者がいなかったため(26) 開講時期適正化のため後期に変更(25)
	国際金融論	2 前		2			1						
	国際政治論	2 後 2 前		2								兼1	開講時期適正化のため後期に変更(26)
	社会統計学	2 後		2			1	+					職位変更(26)
	地球環境論	2 前		2									平成26年度は未開講(26)
社会調査方法論	2 前		2				1						
企業管理	3 後		2			1							
国際経済・貿易論	3 前		2			1							
企業経営論	3 後		2			1							
社会調査演習	3 通		4				1						
比較企業文化論	3 後		2			1							
比較文化論演習	3 後		2				+				兼1	専任准教授1名が就任辞退したため担当者変更(25)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成24年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	・選択科目(哲学概論)の「入門科目」から「専門関連科目」への移動は変更にかウントしない。 ・選択科目(キャリアデザイン論、キャリアデザイン演習、インターンシップ実践)の「共通科目その他」から「基礎科目キャリア」への移動は変更にかウントしない。
14	232	0	246	14 [0]	242 [▲13△3]	0 [0]	256 [▲13△3]	

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	政治学入門	2	1	一般	選択	平成25年3月に担当者より就任辞退の申し出があったため、今年度は未開講とした。(25)
2	文学と人生	2	1	一般	選択	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講とした。(26)
3	世界歴史入門	2	2	一般	選択	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講とした。(26)
4	マーケティング入門	2	2	一般	選択	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講とした。(26)
5	日中文化交流史	2	2	専門	選択	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講とした。(26)
6	日中比較文化論	2	2	専門	選択	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講とした。(26)
7	地球環境論	2	2	専門	選択	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講とした。(26)

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	科学と人間	2	2	一般	選択	平成26年度入学生から大学共通の「基礎科目」を見直した結果、当該科目は廃止し、新たに「地域科目」3科目を追加した。(26)
2	環境と人間	2	2	一般	選択	平成26年度入学生から大学共通の「基礎科目」を見直した結果、当該科目は廃止し、新たに「地域科目」3科目を追加した。(26)
3	生命と人間	2	2	一般	選択	平成26年度入学生から大学共通の「基礎科目」を見直した結果、当該科目は廃止し、新たに「地域科目」3科目を追加した。(26)

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・今年度開講されない科目は、選択科目であり、他の選択科目が十分に開講されているので学生の履修に支障はない。学生には、ガイダンス、掲示等を通じて来年度開講する旨を説明・周知している。
・大学共通の「基礎科目」の各群を「基礎理念科目」、「地域科目」、「キャリア科目」、「日本語スキル科目」に見直した結果、上記3科目を廃止する。この措置は、平成26年度入学生から適用するため、平成25年度以前の入学生に対しては、従来どおり開講するので支障はない。

(注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.03}$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	相愛高校 (収容定員:1,200名) 相愛中学校 (収容定員:450人) と共用 届出面積 7,077㎡			
	校舎敷地	53,868 ㎡	1,263 ㎡	5,814 ㎡	60,945 ㎡				
	運動場用地	13,028 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	13,028 ㎡				
	小 計	66,896 ㎡	1,263 ㎡	5,814 ㎡	73,973 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡				
	合 計	66,896 ㎡	1,263 ㎡	5,814 ㎡	73,973 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		35,331 ㎡ (35,331 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	35,331 ㎡ (35,331 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		47 室	13 室	129 室	7 室 (補助職員 1 人)	1 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		専任教員2名の退職による(25)		
		人文学科			16 18 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	購入図書冊数増による(26) 購入図書冊数増による(25)	
	人文学科	113,359 [13,894] 114,203 [13,914] (113,532 [13,872]) (112,699 [13,834])	194 [100] (194 [100])	43 [43] (43 [43])	836 (842) (838) (830)	3,721 (3,721)	23 (23)		
	計	113,359 [13,894] 114,203 [13,914] (113,532 [13,872]) (112,699 [13,834])	194 [100] (194 [100])	43 [43] (43 [43])	836 (842) (838) (830)	3,721 (3,721)	23 (23)		
(6) 図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納			改装に伴う座席数増(25)	
		4,110 ㎡		359	339	244,000			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		3,024 ㎡		テニスコート6面、ゴルフ練習場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費は、執行額を記載 (25)
		教員1人当り研究費等	200千円	200千円	図書購入費	0千円	2,042千円 500千円	500千円	
		共同研究費等	4,500千円	4,500千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,245千円	1,045千円	1,045千円	1,045千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	相愛大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍		大阪府大阪市 住之江区南港中 4丁目4番1		
音楽学部										
音楽学科	4	100 120	-	460 480	学士 (音楽)	0.66	平成 12年度			平成26年度より 入学定員・収容定員変 更
音楽マネジメント学科	4	50	-	200 150 100 50	学士 (音楽マネジメント)	0.40	平成 23年度	音楽マネジメント学科 は、2年次より、 大阪府大阪市中央区本町 4丁目1番23号 も利用		学年進行による収容 定員の増加 平成23年度設置
人文学部										
日本文化学科	4	-	-	-	学士 (人文学)		昭和 59年度			平成25年度より 学生募集停止
英米文化学科	4	-	-	-	学士 (人文学)		昭和 59年度			平成21年度より 学生募集停止
人間心理学科	4	-	-	-	学士 (人間心理)		平成 12年度			平成23年度より 学生募集停止
社会デザイン学科	4	-	-	-	学士 (現代社会)		平成 12年度			平成23年度より 学生募集停止
仏教文化学科	4	-	-	-	学士 (人文学)		平成 23年度			平成25年度より 学生募集停止 平成23年度設置
文化交流学科	4	-	10	-	学士 (人文学)		平成 23年度			平成25年度より 学生募集停止 平成23年度設置
人文学科	4	90	-	180 90	学士 (人文学)	0.74	平成 25年度			学年進行による収容 定員の増加 平成25年度設置
人間発達学部										
子ども発達学科	4	100	-	400	学士 (子ども発達学)	0.70	平成 18年度			
発達栄養学科	4	80 100	-	380 400	学士 (発達栄養学)	0.66	平成 18年度			平成26年度より 入学定員・収容定員変 更

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。(ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
- ・ 「平均定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・ 大学、短期大学においては学科単位(短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位)、大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<人文学部 人文学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	学長	カネコ サトル 金児 暁嗣	平成25年4月	宗教心理学	兼任	講師	ナカシ ケスミ 名越 康文	平成26年4月	宗教心理学	理事長職兼務による公務多忙により、担当者変更 (26)
専	教授 (学部長)	ヤマモト ユキオ 山本 幸男	平成25年4月	人文学概論 ※ 日本文化史A 日本文化史B 文化資料論A (歴史文化) 日本文化特殊講義 (歴史文化) 基礎演習B 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究						選挙により学部長交代 (26)
専	教授	スズキ ノリオ 鈴木 徳男	平成25年4月	日本文学入門1 日本文学概論 文化資料論A (日本文学) 日本文化特殊講義 (日本文学) 基礎演習A 専門基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究						「基礎演習B」は、他の専任教員が担当しているクラスがあるので支障はない。(26)
専	教授	ソン キュフ 孫 久富	平成25年4月	日本文学入門1 日本文学概論 文化資料論A (日本文学) 日本文化特殊講義 (日本文学) 基礎演習A 専門基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究				平成26年4月	日本文学講読B	平成26年4月から、文部科学省教職員課からの指導により科目を追加 (26)
専	教授	ナカムラ ケイジ 中村 圭爾	平成25年4月	漢文学講読B	専	教授	ナカムラ ケイジ 中村 圭爾	平成26年4月	漢文学講読B	平成25年度後期から開講される「漢文学講読B」については、後任者を人選中 (25)
専	教授	ソン キュフ 孫 久富	平成25年4月	日中文化交流史 日中比較文化論 文化資料論B (歴史文化) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究 海外研修			後任未定			平成25年3月 孫久富教授の自己都合により就任辞退。後任は未定。平成26年度以降の開講科目については、後任者を採用するか、他の専任教員又は兼務教員が担当するか学部で検討中 (25)
専	教授	トリエ マサハル 鳥井 正晴	平成25年4月	文学と人生 基礎演習A 日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究						平成25年3月 鳥井正晴教授一身上の都合により退職。後任に専任准教授(荒井真里亜)を採用。(26)
専	教授	トリエ マサハル 鳥井 正晴	平成25年4月	文学と人生 基礎演習A 日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究						同科目区分の開講数を勘案した結果、平成26年度は未開講。(26)
専	教授	トリエ マサハル 鳥井 正晴	平成25年4月	文学と人生 基礎演習A 日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究						「基礎演習A」は、他の専任教員が担当しているクラスがあるので支障はない。(26)
専	准教授	アライ マリア 荒井 真理亜 (シラセ マリア) (白瀬 真理亜)	平成25年4月	日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	専	准教授	アライ マリア 荒井 真理亜 (シラセ マリア) (白瀬 真理亜)	平成26年4月	日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	後任の専任准教授に担当者変更 (26)
専	准教授	アライ マリア 荒井 真理亜 (シラセ マリア) (白瀬 真理亜)	平成25年4月	日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究					日本近代文学史 文化資料論B (日本文学) 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究	平成26年4月から、文部科学省教職員課からの指導により科目を追加 (26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	クレタニ ミツトシ 呉谷 充利	平成25年4月	西洋美術史 社会と芸術 大阪文化入門B 中之島文化論 文化資料論A (大阪文化) 専門基礎演習B 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究						「専門基礎演習B」は、他の専任教員が担当しているクラスがあるので支障はない。(26)
専	教授	シヤク テッシュウ 釈 徹宗	平成25年4月	建学の精神 仏教思想と現代 人文学概論 ※ 宗教学概論B 宗教史 寺院運営論 仏教文化講読1 専門研究演習 卒業研究						「仏教思想と現代」は、他のクラスがあるので支障はない。(26)
専	教授	ハツツカ マキコ 初塚 眞喜子	平成25年4月	カウンセリング演習I 心理学実習 生涯発達の臨床心理学 (乳幼児期) 生涯発達の臨床心理学 (青年期) 発達心理学概説 カウンセリング論I 専門応用演習A 専門研究演習 卒業研究						
								平成26年4月	基礎演習B	担当科目の追加(26)
専	教授	ブルーナ カックス テリーサ BRUNER-COX, Teresa	平成25年4月	文化人類学入門 ※ 異文化間コミュニケーション スピーチと プレゼンテーション ビジネス英語 コミュニケーション実践 アメリカの社会と文化 専門基礎演習B 海外研修						平成25年8月BRUNER-COX, Teresa教授体調不良のため退職。後任に専任講師(J. E. Alsdorf)を採用。(26)
										他の専任教員が、オムニバス授業から通常授業に変更の上、開講するので支障はない。(26)
専	講師				専	講師	ヨハン E アルズドルフ J. E. Alsdorf	平成26年4月	異文化間コミュニケーション スピーチと プレゼンテーション ビジネス英語 コミュニケーション実践 アメリカの社会と文化	後任の専任講師に担当者変更(26)
										「専門基礎演習B」は、他の専任教員が担当しているクラスがあるので支障はない。(26)
					専	准教授	イシカワ レイコ 石川 玲子	平成26年4月	海外研修	学科の運営上、他の専任教員に担当者変更。(26)
専	教授	キノシタ(研7) アリコ 木下(森光) 有子	平成25年4月	多文化社会論入門 ことばと文化 文化人類学入門 ※ 通訳入門 通訳演習 文化交流実践 専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究				平成26年4月	文化人類学入門	オムニバス授業から通常授業に変更。(25)
専	教授	カタオカ タダシ 片岡 尹	平成25年4月	経済学入門 国際金融論 企業管理 国際経済・貿易論 企業経営論 比較企業文化論 専門研究演習 卒業研究						

専任・兼任・兼任の別	設置時の計画				変更状況				備考		
	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名			
専	准教授	タカキ マナブ 高木 学	平成25年4月	社会学概説	兼任 講師	オウ カズミ 翁 和美	平成26年4月	社会学概説	学科の運営上、他の兼任教員に担当変更。(26)		
				サブカルチャー入門B 日本社会とメディア 日本のアニメ文化 文化資料論B (サブカルチャー)							
				専門応用演習A 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究 グループワーキング演習			平成25年4月	情報処理演習	クラス数増加に伴い担当者を追加(25)		
専	准教授	オノ マコト 小野 真	平成25年4月	宗教学概論A 仏教思想論 宗教哲学	兼任 教授	オオムラ エイシヨウ 大村 英昭	平成26年4月	比較宗教学	学科の運営上、他の兼任教員に担当変更。(26)		
				基礎演習B 専門応用演習A 専門応用演習B							
									平成26年4月	専門基礎演習B	担当科目の追加(26)
専	准教授	ササキ タカアキ 佐々木 隆晃	平成25年4月	建学の精神 仏教学概論B 真宗学概論 真宗聖典学 真宗学特殊講義 真宗伝道演習 基礎演習A 専門基礎演習B プレゼンテーション演習							
専	准教授	マスダ ケイ 益田 圭	平成25年4月	人権教育 人文学概論 ※ 心理学実習 人間関係論 心理統計学 産業・組織心理学 社会統計学 専門基礎演習A 専門応用演習A 専門応用演習B 主体的学習法 データ分析	教授				平成26年4月1日より職位変更。(26)		
専	准教授	ニシサコ セイイチロウ 西迫 成一郎	平成25年4月	健康科学 心理学実習 社会心理学 健康心理学 グループダイナミックス 専門応用演習B 専門研究演習 卒業研究							
							基礎演習A 基礎演習B 専門基礎演習A 専門基礎演習B	担当科目の追加(26)			
専	准教授	イシカワ レイコ 石川 玲子	平成25年4月	資格英語ⅢA 資格英語ⅢB	専 教授	キノシタ(杏枝) アリコ 木下(森光) 有子	平成26年4月	資格英語ⅢA 資格英語ⅢB	学科の運営上、他の専任教員に担当変更。(26)		
				英米文化入門 英米文学概論 イギリスの社会と文化 翻訳入門 翻訳演習 英米文学講読 専門研究演習 卒業研究							

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	カド カズマサ 嘉戸 一将	平成25年4月	日本史入門	兼任	講師	カド カズマサ 嘉戸 一将	平成25年4月	日本史入門 文化交流論	平成25年3月 嘉戸一将准教授の自己都合により退職。平成25年度は兼任教員として担当(25)
				文化交流論					未開講	「基礎演習B」は未開講であるが、他のクラスがあるので支障はない(25)
				基礎演習B					後任未定	平成25年3月 嘉戸一将准教授の自己都合により就任辞退。後任は未定。平成26年度以降の開講科目については、後任者を採用するか、他の専任教員又は兼務教員が担当するか学部で検討中(25)
				専門基礎演習A					未開講	「専門基礎演習A」は、他の専任教員が担当しているクラスがあるので支障はない。(26)
				日本思想史 比較文化論 比較文化論演習 専門応用演習A 専門応用演習B 社会人基礎力実践						
専	准教授	フジタニ タダアキ 藤谷 忠昭	平成25年4月	人文学概論 ※ 現代社会論 フィールドワーク論 情報社会論 社会調査入門 現代社会論演習 社会調査方法論 社会調査演習 専門研究演習 卒業研究						
兼任	教授	エグサ ヒロユキ 江草 浩幸	平成25年4月	大学生のための日本語入門 心理学入門 知覚心理学 学習心理学 心理学実験演習						
兼任	教授	チバ シンヤ 千葉 真也	平成25年4月	日本文化概論 大学生のための日本語入門						
				日本語表現法			平成26年4月	文章表現	平成26年度入学生から、基礎科目の改訂に伴い名称変更。ただし、平成25年度以前の入学生は、従前通りの名称。(26)	
兼任	教授	ヤマモト カズアキ 山本 和明	平成25年4月	日本文学入門2	兼任	講師	ノダ ナオエ 野田 直恵	平成26年4月	日本文学入門2	平成25年10月より、本人の都合により退職。 担当者変更(26)
				日本古典文学史	専	教授	スズキ ノリオ 鈴木 徳男	平成26年4月	日本古典文学史	平成25年10月より、本人の都合により退職。 担当者変更(26)
				浪速の文学						
兼任	教授	ヤマシタ ノボル 山下 昇	平成25年4月	大学生のための日本語入門 インターンシップ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ						
兼任	教授	ハセガワ セイイチ 長谷川 精一	平成25年4月	教育原論 学校と教師					教職入門	文部科学省教職員課からの指導により「学校と教師」を「教職入門」に名称変更。平成26年4月に開講予定(25)
兼任	教授	ナカムラ ケイジ 中村 圭爾	平成25年4月	人文学概論 ※ 社会人基礎力形成演習	専	教授				平成26年4月1日より身分が、兼任から専任に変更(26)
										平成26年4月
兼任	講師	ナカムラ ケイジ 中村 圭爾	平成27年4月	人文学概論 ※ 社会人基礎力形成演習						
兼任	教授 (学部長)	ハシモト ジュンイチロウ 橋元 淳一郎	平成25年4月	サブカルチャー入門A 物理学入門						平成26年4月1日から、選挙により学部長に就任(26)
兼任	講師	ハシモト ジュンイチロウ 橋元 淳一郎	平成27年4月	サブカルチャー入門A 日本のSFとバーチャル文化 文化資料論A(サブカルチャー) 現代文明論 物理学入門 日本文化特殊講義 (サブカルチャー)						

専任・兼任・兼任の別	設置時の計画				変更状況				備考
	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	クワハラ ヨシト 桑原 義登	平成25年4月	人間の心と行動 生涯発達臨床心理学 (児童期) 心理学研究法					
							平成26年4月	基礎演習A 専門基礎演習A	担当科目の追加(26)
兼任	講師	クワハラ ヨシト 桑原 義登	平成27年4月	人間の心と行動 カウンセリング演習II カウンセリング実習 生涯発達臨床心理学 (児童期) 心理学研究法					
兼任	教授	マエガキ カズヨシ 前垣 和義	平成26年4月	大阪文化入門A 現代大阪文化論 大阪ビジネス論					
兼任	講師	マエガキ カズヨシ 前垣 和義	平成27年4月	大阪文化入門A 現代大阪文化論 大阪ビジネス論 文化資料論B (大阪文化) 日本文化特殊講義 (大阪文化)					
兼任	教授	オオムラ エイショウ 大村 英昭	平成26年4月	宗教社会学					
兼任	講師	オオムラ エイショウ 大村 英昭	平成27年4月	宗教社会学					
兼任	准教授	ナオハヤシ フタイ 直林 不退 (ナオハヤシ シュウイチ) (直林 修一)	平成25年4月	仏教思想と現代 大学生のための日本語入門 日本仏教史A 日本仏教史B					平成25年4月1日より職位の変更(25)
							平成26年4月	基礎演習A 基礎演習B	担当科目の追加(26)
兼任	講師	ナオハヤシ フタイ 直林 不退 (ナオハヤシ シュウイチ) (直林 修一)	平成27年4月	仏教思想と現代 大学生のための日本語入門 日本仏教史A 日本仏教史B					
兼任	准教授	ミヨシ ユキハル 三好 幸治	平成25年4月	法学入門 日本国憲法	兼任 講師	ミゾブチ マサアキ 溝渕 将章	平成25年4月	法学入門	平成25年4月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更(25)
					兼任 講師	チヨハラ リョウイチ 千代原 亮一	平成25年4月	日本国憲法	平成25年4月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更(25)
					兼任 講師	アキモト ヨウスケ 秋元 洋祐	平成26年4月	日本国憲法	平成26年4月より、本人(千代原 亮一)の都合により就任辞退。担当者変更(26)
					兼任 講師	オクノ ヒロユキ 奥野 浩之	平成25年4月	日本国憲法	平成25年4月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更(25)
兼任	講師	ワタナベ ノリオ 渡邊 了生	平成25年4月	仏教学概論A					
兼任	講師	ヒダカ アキラ 日高 明	平成25年4月	哲学概論 仏教と社会福祉					
兼任	講師	ハチヤ マユミ 蜂矢 真弓	平成25年4月	国語学概論 国語学演習A 国語学演習B					
兼任	講師	クリハラ ユカ 栗原 由加	平成25年4月	言語学概論	兼任 講師	ホリカワ トモヤ 堀川 智也	平成26年4月	言語学概論	平成26年4月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更(26)
兼任	講師	キタヤマ ミツマサ 北山 円正	平成25年4月	漢文学講読A 漢文学					
兼任	講師	ハマシ マユ 濱住 真有	平成27年4月	日本美術史					
兼任	講師	モリタ テイコ 盛田 帝子 (イクハラ テイコ) (飯倉 帝子)	平成26年4月	国語表現法	兼任 講師	ノダ ナオユキ 野田 直恵	平成26年4月	国語表現法	平成26年4月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更(26)
兼任	講師	フクダ チカシ 福田 知可志	平成26年4月	漢文学史A 漢文学史B					

専任・兼任・兼任の別	設置時の計画				変更状況				備考	
	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	フナオ ヨシヒロ 舟尾 善博	平成27年4月	書道A 書道B						
兼任	講師	アライ マリア 荒井 真理亜 (シラセ マリア) (白瀬 真理亜)	平成27年4月	映像と文学	専	准教授			平成26年4月1日、専任准教授として採用(26)	
兼任	講師	タナカ ヨシコ 田中 美子	平成25年4月	倫理学入門 日本の哲学A 日本の哲学B						
兼任	講師	カツラ ブンガ 桂 文我 (オオヒガシ ユキヒロ) (大東 幸浩)	平成27年4月	上方落語論						
兼任	講師	サイカ タダヒロ 雑賀 忠宏	平成26年4月	日本漫画史						
兼任	講師	ウサミ ナオヒデ 宇佐美 直秀	平成26年4月	仏教と生活 ※ 仏教文化演習						
兼任	講師	クラタ ヤヨイ 蔵田 弥生	平成26年4月	仏教と生活 ※ 仏教文化演習						
兼任	講師	ヤマサキ ケイイチロウ 山崎 恵一郎	平成26年4月	仏教と生活 ※ 仏教文化演習	兼任	講師	ヨシムラ ショウヨウ 吉村 昇洋	平成26年4月	仏教と生活 ※	担当者の変更(26)
兼任	講師	ノリヤマ サトル 乗山 悟	平成25年4月	建学の精神 仏教思想と現代 パーリ語入門						
兼任	講師	イノウエ アキラ 井上 陽	平成26年4月	サンスクリット語入門						
兼任	講師	フクモト ヤスユキ 福本 康之	平成25年4月	宗教儀礼概論						
兼任	講師	ナオミ ゲンテツ 直海 玄哲	平成25年4月	仏教史						
兼任	講師	ハラダ シュウジ 原田 宗司	平成26年4月	真宗史						
兼任	講師	ササキ ジョウドウ 佐々木 奘堂	平成26年4月	身体論						
兼任	講師	サトウ ユウスケ 佐藤 友亮	平成26年4月	身体論						
兼任	講師	モリモトノリコ 森本 典子	平成27年4月	宗教社会活動論						
兼任	講師	ウチモト ミクル 打本 未来	平成27年4月	ビハーラ演習						
兼任	講師	アマギシ ジョウエン 天岸 浄園	平成27年4月	真宗教学史・教団史						
兼任	講師	チカマツ ショウシュン 近松 照俊	平成27年4月	真宗儀礼演習						
兼任	講師	チカマツ シンジョウ 近松 真定	平成27年4月	真宗儀礼演習						
兼任	講師	ベッキ コウショウ 戸次 公正	平成27年4月	仏教文化講読2						
兼任	講師	カツモト カレン 勝本 華蓮	平成27年4月	アジアの仏教と社会						
兼任	講師	ニシダ ヨシオ 西田 吉男	平成27年4月	カウンセリング実習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	ヨコカワ マチコ 横川 真知子 (ダイドウ マチコ) (大道 真知子)	平成27年4月	生涯発達臨床心理学 (成人・高齢期) 異常心理学						
兼任	講師	ナカムラ シンスケ 中村 慎佑	平成25年4月	パーソナリティの心理学 消費者行動論						
兼任	講師	ニシイ ケイコ 西井 恵子	平成27年4月	カウンセリング論Ⅱ 精神分析学						
兼任	講師	タナカ シゲキ 田中 茂樹	平成27年4月	精神医学 神経心理学						
兼任	講師	シオタニ タカマサ 塩谷 尚正	平成27年4月	家族心理学						
兼任	講師	オオノ ナオキ 大野 直樹	平成25年4月	国際関係入門 国際政治論						
兼任	講師	フルタ マコト 古田 誠	平成25年4月	マス・メディア論						
兼任	講師	ムカイ ソノヨ 向井 苑生	平成26年4月	地球環境論					未開講	同科目区分の開講数を勘案した結果、今年度は未開講。他に選択科目があるため支障はない。(26)
兼任	講師	タムラ シオン 多村 至恩	平成25年4月	建学の精神 仏教思想と現代						
兼任	講師	ホンダ アヤ 本多 彩	平成25年4月	建学の精神 仏教思想と現代						
兼任	講師	チタニ キミカズ 智谷 公和	平成25年4月	建学の精神				平成26年4月	仏教思想と現代	クラス数増加に伴い担当者を追加(26)
兼任	講師	イケヤマ セツロウ 池山 説郎	平成25年4月	科学と人間 科学史入門						平成26年度入学生から、基礎科目の改訂に伴い「科学と人間」は廃止。ただし、平成25年度以前の入学生は、従前通り開講。(26)
兼任	講師	ホンダ マコト 本多 真	平成26年4月	環境と人間						平成26年度入学生から、基礎科目の改訂に伴い「環境と人間」は廃止。ただし、平成25年度以前の入学生は、従前通り開講。(26)
兼任	講師	クロハラ ヒデユキ 桑原 英之	平成26年4月	生命と人間						平成26年度入学生から、基礎科目の改訂に伴い「生命と人間」は廃止。ただし、平成25年度以前の入学生は、従前通り開講。(26)
兼任	講師	スズキ ケイゴ 鈴木 敬吾	平成26年4月	日本語表現法 音楽の楽しみ					文章表現	平成26年度入学生から、基礎科目の改訂に伴い名称変更。ただし、平成25年度以前の入学生は、従前通りの名称。(26)
兼任	講師	タナカ フジオ 田中 不二夫	平成25年4月	西洋文化史 美学						
兼任	講師	ニシオ ヤスヒロ 西尾 泰広	平成25年4月	日本歴史入門						
兼任	講師	オオニシ リクコ 大西 陸子	平成26年4月	世界歴史入門					未開講	同科目区分の開講数を勘案した結果、平成26年度は未開講。(26)
兼任	講師	セキグチ ヤスユキ 関口 靖之	平成25年4月	地理学入門(地誌を含む)						
兼任	講師	スギモト ヨシオ 杉本 良雄	平成25年4月	経済学入門					未開講	所属学部等の都合により未開講。他のクラスがあるので支障はない(25)
兼任	講師	スガ マキコ 菅 万希子	平成26年4月	経営学入門 マーケティング入門	兼任	講師	イケダ ヒロシ 池田 浩	平成26年4月	経営学入門	所属学部等の都合により担当者変更。(26)
									未開講	同科目区分の開講数を勘案した結果、平成26年度「マーケティング入門」は未開講。(26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	オオタニ シンタロウ 大谷 新太郎	平成26年4月	観光学入門	兼任	講師	サキモト タケシ 崎本 武志	平成26年4月	観光学入門	平成26年4月より、本人の都合により就任辞退。 担当者変更(26)
兼任	講師	ツネモト ハジメ 常本 一	平成25年4月	政治学入門					未開講	平成25年4月より、本務の都合で就任辞退。今年度は未開講。他の選択科目があるので支障はない(25)
					兼任	講師	オオヤ ヨシユキ 大矢 吉之	平成26年4月	政治学入門	平成26年度は、担当者を変更して当初の計画通り通常開講。(26)
兼任	講師	ムカイ タダシ 向井 正	平成25年4月	数学入門 地球と宇宙						
兼任	講師	ハラダ ナルヒコ 原田 匠彦	平成25年4月	化学入門						
兼任	講師	オオタ カズタカ 太田 和孝	平成25年4月	生物学入門						
兼任	講師	ナカガワ マナブ 中川 学	平成26年4月	現代と医学						
兼任	講師	マエダ チエコ 前田 智恵子	平成25年4月	看護介護入門						
兼任	講師	オカモト カヨコ 岡本 香代子	平成25年4月	健康科学 健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習					未開講	クラス編成の都合上、未開講。 「生涯健康とスポーツ実習」は、他のクラスがあるので支障はない。 (26)
兼任	講師	オクノ マサミチ 奥野 暢通	平成25年4月	健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習						
兼任	講師	ミナトノ エミ 港野 恵美	平成25年4月	健康とスポーツ実習						
兼任	講師	シモジ シンヤ 下地 信也	平成25年4月	キャリアデザイン論 キャリアデザイン演習	兼任	教授	ヤマシタ ノボル 山下 昇	平成26年4月	キャリアデザイン論 キャリアデザイン演習	所属学部等の都合により担当者変更。 (26)
兼任	講師	オカモト クニコ 岡本 久仁子	平成25年4月	情報処理演習						
兼任	講師	オカダ ユタカ 岡田 裕	平成25年4月	情報処理演習 情報と社会						
兼任	講師	ナカジマ キンヤ 中島 欣哉	平成25年4月	情報処理演習						
兼任	講師	ハヤシ ミエコ 林 美恵子	平成25年4月	情報処理演習					未開講	クラス編成の都合上、未開講。 「情報処理演習」は、他のクラスがあるので支障はない。(26)
兼任	講師	ハギワラ マサヤ 萩原 雅也	平成25年4月	生涯学習概論						
兼任	講師	ヤマモト ジュンイチ 山本 順一	平成25年4月	図書館概論	兼任	教授	キタ カズイチ 北 克一	平成25年4月	図書館概論	平成25年4月より、専任を採用したため担当者変更(25)
兼任	講師	ナワ ツキノスケ 名和 月之介	平成26年4月	ボランティア論 ボランティア体験						
兼任	講師	イシイ ユミコ 石井 優美子	平成25年4月	音楽実技						
兼任	講師	トミオカ ミチコ 富岡 美知子	平成26年4月	異文化間教育論						
兼任	講師	ハヤシ ハルオ 林 春男	平成26年4月	宗門法規						
兼任	講師	カドノ ヒロアキ 葛野 洋明	平成26年4月	布教法	兼任	講師	タケモト リョウゴ 竹本 了悟	平成26年4月	布教法	平成26年4月より、本人の都合により就任辞退。 担当者変更(26)
兼任	講師	タカハシ アキト 高橋 昭人	平成26年4月	勤式作法						

専任・兼任・兼任の別	設置時の計画				専任・兼任・兼任の別	変更状況				備考
	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名		職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	ヨハン E アルスドルフ J. E. Alsdorf	平成25年4月	英会話 I 英会話 II	専	講師				平成26年4月1日、専任講師として採用 (26)
兼任	講師	モリカワ ヤスコ 森川 康子	平成25年4月	英会話 I 英会話 II						
兼任	講師	マイケル C ルイス Michael C. Lewis	平成25年4月	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV						
兼任	講師	クボ キミヒト 久保 公人	平成25年4月	英語 I 英語 II				未開講		クラス編成の都合上、平成25年4月より未開講。「英語 I」「英語 II」は、他に担当者がいるため支障はない。(25)
兼任	講師	タグチ (ナカジマ) ヒロコ 田口 (中島) 寛子	平成25年4月	英語 I 英語 II 資格英語 II A 資格英語 II B	兼任	講師	イサカイ キスファミ 飯盛 康史	平成25年10月	英語 I 英語 II	平成25年10月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更 (26)
					兼任	准教授	イシカワ レイコ 石川 玲子	平成26年4月	資格英語 II A 資格英語 II B	平成25年10月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更 (26)
兼任	講師	ニシガキ ユカ 西垣 有夏	平成25年4月	英語 I 英語 II						
兼任	講師	ノグチ マサコ 野口 昌子	平成25年4月	英語 I 英語 II 資格英語 I A 資格英語 I B						
兼任	講師	ソウマ サオリ 相馬 沙織 (マツモト サオリ) (松本 沙織)	平成25年4月	英語 I 英語 II						
兼任	講師	シマモト ケイタ 嶋本 慶太	平成25年4月	ドイツ語 I ドイツ語 II					未開講	平成25年4月より、本人の都合により就任辞退。「ドイツ語 I」、「ドイツ語 II」は、他に担当者がいるため支障はない。(25)
					兼任	講師	ツチヤ キョウコ 土屋 京子	平成26年4月	ドイツ語 I ドイツ語 II	平成26年度は、担当者を変更して当初の計画通り通常開講。(26)
兼任	講師	タジマ アキヒロ 田島 昭洋	平成25年4月	ドイツ語 I ドイツ語 II						
兼任	講師	コマツ ヒロアキ 小松 寛明	平成25年4月	イタリア語 I イタリア語 II						
兼任	講師	ケヤキダニ ユキコ 樺谷 由紀子	平成25年4月	イタリア語 I イタリア語 II						
兼任	講師	コマツ マサミチ 小松 正道	平成25年4月	フランス語 I フランス語 II	兼任	講師	ササキ カオリ 佐々木 香理	平成25年4月	フランス語 I フランス語 II	平成25年4月より、本人の都合により就任辞退。担当者変更 (25)
					兼任	講師	ササキ コウタ 佐々木 幸太	平成26年4月	フランス語 I フランス語 II	平成26年4月より、本人 (佐々木香理の都合により就任辞退。担当者変更 (26)
兼任	講師	タナカ ヨウコ 田中 洋子	平成25年4月	中国語 I 中国語 II						
兼任	講師	リ ネイ 李 寧	平成25年4月	中国語 I 中国語 II				未開講		クラス編成の都合上、未開講。「中国語 I、II」は、他のクラスがあるので支障はない。(26)
					兼任	講師	ツカダ ヒロノリ 塚田 博教	平成25年4月	建学の精神	クラス数増加に伴い担当者を追加 (25)
					兼任	講師	マツバラ マコト 松原 真	平成25年4月	大学生のための日本語入門	クラス数増加に伴い担当者を追加 (25)
									未開講	クラス編成の都合上、未開講。「大学生のための日本語入門」は、他のクラスがあるので支障はない。(26)
					兼任	講師	シバヤマ ケイ 柴山 慧	平成25年4月	健康とスポーツ実習	クラス数増加に伴い担当者を追加 (25)
									未開講	クラス編成の都合上、未開講。「健康とスポーツ実習」は、他のクラスがあるので支障はない。(26)

専任・兼任・兼任の別	設置時の計画				変更状況				備考	
	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月		担当授業科目名
					兼任	講師	ポール ジョーゲンセン Paul Jorgenson	平成25年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	クラス数増加に伴い担当者を追加(25)
					兼任	講師	アンドリュー リーガル Andrew Regal	平成26年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	平成26年4月より、本人(Paul Jorgenson)の都合により就任辞退。担当者変更(26)
					兼任	講師	アンドリュー ケツスィーカス Andrew Katsikas	平成25年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	クラス数増加に伴い担当者を追加(25)
					兼任	講師	カール プライス Karl Price	平成26年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	平成26年4月より、本人(Andrew Katsikas)の都合により就任辞退。担当者変更(26)
					兼任	講師	ジェイ レイミー Jay Ramey	平成25年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	クラス数増加に伴い担当者を追加(25)
					兼任	講師	ケビン ベレンズ Kevin Behrens	平成26年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	平成26年4月より、本人(Jay Ramey)の都合により就任辞退。担当者変更(26)
					兼任	講師	ハマハタ ケイゴ 浜畑 圭吾	平成25年4月	文学と芸能	平成25年4月から、文部科学省教職員課からの指導により科目を追加(25)
								平成26年4月	日本文学と仏教	平成26年4月から、文部科学省教職員課からの指導により科目を追加(26)
					兼任	講師	コンドウ キンイチ 近藤 欽一	平成26年4月	人権教育	クラス数増加に伴い担当者を追加(26)
					兼任	講師	ヤスイ カズエ 安井 寿枝	平成26年4月	国語史 日本語プレゼンテーション	平成26年4月から、文部科学省教職員課からの指導により科目を追加(26)

所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由、変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
10	8	0	0	18	9	7	1	0	17	68	0
(10)	(8)	(0)	(0)	(18)	[△3▲2]	[△1]	[▲1]	[0]	[△1]	歳	名

(注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成26年5月1日現在、特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	教授	孫 久富	当人は、相愛大学人文学部に平成4年4月より勤務しており、今回の学科設置にあたり人文学部の教授として平成25年度から就任予定であった。しかしながら、一身上の理由から平成25年3月末をもって本学を退職したい旨の願い出があった。
2	准教授	嘉戸 一将	当人は、相愛大学人文学部に平成17年4月より勤務しており、今回の学科設置にあたり人文学部の准教授として平成25年度から就任予定であった。しかしながら、一身上の理由から平成25年3月末をもって本学を退職したい旨の願い出があった。
3	教授	鳥井 正晴	当人は、相愛大学人文学部に平成14年4月より勤務しており、今回の学科設置にあたり人文学部の教授として平成25年度に就任した。しかしながら、一身上の理由から平成26年3月末をもって本学を退職したい旨の願い出があった。
4	教授	BRUNER-COX, Teresa	当人は、相愛大学人文学部に昭和61年より長年勤務しており、今回の学科設置にあたり人文学部の教授として平成25年度に就任した。しかし、平成25年度前半に体調を崩し、平成25年度8月末をもって、本学を退職したい旨の願い出があった。

(注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<ul style="list-style-type: none"> ・孫教授と嘉戸准教授は、学科設置にあたり、その計画に関与し、平成25年度に専任教員として就任を予定していたものの突然の辞意表明は、誠に遺憾ではあるが、一身上の理由による両名の辞意は固く、平成25年3月末での退職を認めた。(平成25年度履行状況報告書で報告済み) ・BRUNER-COX, Teresa教授は、学科設置にあたり、その計画に関与し、平成25年度に専任教員として就任したものの、体調不良による本人の辞意は固く、平成25年8月末での退職を認めた。また、鳥井教授も学科設置にあたり、その計画に関与し、平成25年度に専任教員として就任したものの、一身上の理由による本人の辞意は固く、平成26年3月末での退職を認めた。 ・平成26年度以降の教員配置のあり方を、また、授業運営に影響を生じないよう再度慎重に検討した結果、新たに2名の専任教員を採用するとともに、1名の兼任教員を専任教員に変更した。 ・学生には、新年度ガイダンス及び学内掲示等を通じて詳細説明を行った。
--

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成25年2月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成26年2月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<人文学部 人文学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

平成20年度より、全学的なFD委員会が設置されている。
 （別紙1：相愛大学FD委員会規程）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成25年度は、計6回（5/16、7/11、9/26、11/28、1/30、2/27）委員会が開催された。
 委員の構成は、副学長、自己点検副委員長、教学部長、各学部より選出された自己点検委員1名、共通教育センター選出の自己点検委員1名、教学事務部長、学生事務部長、その他学長が必要と認めた者若干名。（平成25年度の委員構成は、教員6名と職員2名）

c 委員会の審議事項等

- ・各施策の実施について
- ・授業評価アンケートについて
- ・授業公開（見学）について
- ・授業評価アンケートの結果分析について
- ・FD研修会の実施について

② 実施状況

a 実施内容

- ・授業評価アンケート
- ・教員相互の授業参観
- ・シンポジウム形式によるFD研修会
- ・外部講師によるFD研修会
- ・体験型のFD研修会

b 実施方法

- ・授業評価アンケートの実施
 講義期間内に実施し、教員に結果をフィードバックし、それについての教員の意見及び改善が必要な場合の改善方策を提出させることで、早急な授業改善に繋げている。
 結果についても、ポータルサイトにおいて教職員・学生に向けて公開している。

- ・教員相互の授業参観
参加の機会を増やすために、原則として全授業公開としてして実施した。
終了後、授業の内容、教授方法等についての、参観者からのコメントを、「FD授業見学コメント集」として冊子を作成するとともに、授業改善に繋げている。
 - ・シンポジウム形式によるFD研修会
学生の実態を把握するとともに、各パネリスト（教員・事務職員）から、課題や意見、問題提起がなされ、意見交換を実施。
 - ・外部講師によるFD研修会
外部から招聘した適任者による講演会を実施。
- c 開催状況（教員の参加状況含む）
- ・授業評価アンケートの実施
年1回実施（全教員ひとり1科目を対象として実施。実施時期：12月2日～14日）
 - ・教員相互の授業参観
年1回実施（11月11日から11月23日の間／専任教員の授業はすべて公開。）
 - ・シンポジウム形式によるFD研修会
2011年度 「相愛大学のFD活動の現状と課題－何が達成されたのか、何がさらに求められているのか－」（2012年2月15日開催）
2012年度 「基礎学力テスト結果が示す相愛大生の現状とそれへの対策」（2012年6月28日開催）
2013年度 「各学部における新しい授業方法の試み」（2014年2月19日開催）
 - ・外部講師によるFD研修会
研修会は2008年度から実施しており、各年度の開催内容は次の通り。（各回の参加者は、40～90名）
2008年度 「大学全入時代の学生の傾向と対策」（2009年2月19日開催）
2009年度 「学生の基礎学力をどう育成するか」（2010年2月22日開催）
2010年度 「授業を通して学生の社会人基礎力をどう育成するか」（2011年2月16日開催）
2011年度 「学生中心・学習重視の大学へアウトカムを重視した質保証システムの構築」（2011年6月16日開催）
2011年度 「関西国際大学におけるアクティブ・ラーニングと学生メンター」（2011年10月24日開催）
2012年度 「立命館大学における教学IR－教育改善とIRのリンケージ」（2012年11月2日開催）
2013年度 「『大学生基礎力調査I』から考える本学1年生の現状と課題」（2013年8月1日開催）
2013年度 「学力向上に向けて必要な教育改革と教職員の意識」（2013年9月26日開催）
 - ・体験型のFD研修会
「学生時代にもどって、主体的学修を体験してみよう！－「ALPS」初公開－」（2013年2月20日開催）
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- ・授業評価アンケートの結果を受けて、各教員に結果に対するコメント、改善の方法などを記述してもらい、並行して委員会において分析し取りまとめたものを、冊子にして刊行・配布すると共に、ポータルサイトに公開を行っている。FD委員会や各学部等において、改善の方途を集团的に検討している。
 - ・教員相互の授業参観については、授業公開終了後に今後の改善に資するよう、担当者を含めた検討会を開いている。また、「FD授業見学コメント集」を作成し、改善につなげている。
 - ・FD研修会については、終了後、参加者からコメントを求め、「FD研修会コメント集」として冊子を作成し、今後の教育改革に繋げている。
 - ・全学的な取り組みについては一定の方式が定着し、積み上げられてきており、授業改善に効果が見られつつある。さらに継続的に検証を加え、また綿密化を図りながら、組織全体に行き渡らせるために、各学部でのFD活動を活発化させていきたい。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施時期：12月2日～12月14日

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・授業評価アンケートの結果を受けて、各教員に結果に対するコメント、改善の方法などを記述してもらい、並行して委員会において分析し取りまとめたものを、冊子にして刊行・配布すると共に、ポータルサイトに公開を行っている（教員・学生共に閲覧が可能）。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別紙2)
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表(予定)時期
- ・「響流(こうる)第4号」 平成22年7月公表
- b 公表方法
- ・自己点検・評価報告書「響流(こうる)」を刊行し、教職員および関係諸機関に配布
 - ・刊行後、大学ホームページ上に公開
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・平成21年3月に評価機関(大学基準協会)の評価を受け「保留」と判定された後、平成23年6月に再評価の改善報告書を提出した結果、「適合」と判定された。(認定期間:平成24年4月~平成28年3月まで)
 - 平成27年度に次の認証評価の受審を行う。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書
- a ホームページに公表の有無 (有) ・ (無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成26年 7月 末日)

相愛大学 FD 委員会規程

(設置)

第 1 条 相愛大学（以下「本学」という。）に FD 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 本学教員の教育研究活動の向上と能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、FD に関わる事項を審議する。

(所管)

第 3 条 委員会は以下の事項を所管する。

- (1) FD の企画・立案に関すること
- (2) FD の実施計画と運営に関すること
- (3) FD 活動に関わる情報の収集と提供
- (4) FD に関する広報活動
- (5) その他 FD に関する事項

(構成)

第 4 条 委員会は次の者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 自己点検副委員長
- (3) 教学部長
- (4) 各学部より選出された自己点検委員 1 名
- (5) 共通教育センター選出の自己点検委員 1 名
- (6) 教学事務部長
- (7) 学生事務部長
- (8) その他学長が必要と認めた者若干名

(委員長)

第 5 条 委員会を統括するために委員長を置く。

- 2 委員長は委員の中から学長が任命する。
- 3 委員長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 4 委員長は必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

(任期)

第 6 条 前々条の委員の任期は次の通りとする。

- (1) 前々条第 1 号、2 号、3 号、6 号、7 号の委員の任期はその在任中とする。
- (2) 前々条第 4 号、5 号、8 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

(事務の所管)

第 7 条 委員会の事務は教学課が所管する。

(改廃)

第 8 条 この規程の改廃は大学評議会の議を経て学長が行う。

附則 この規程は平成 20 年 7 月 17 日より施行する。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する統括評価・所見

○「人文学科」の設置の趣旨・目的

人文学部は、これまで、「文化」を基軸とした学部学科編成における、「文化」の専門教育を基本とした教育を行ってきた。しかし、今日のユニバーサル化と称される時代の本学部入学生にとって、学士課程教育における「文化」に関わる専門性の獲得や「文化」の抽象性の理解は相当に困難であり、それらを卒業後の進路に直結させることも容易ではないと判断し、この学科では、「学士力」の修得、ないしは将来の社会人としての生活を持続させるような能力の習得によって学士課程の質を保証する教育体制の構築を目的とし設置することとした。具体的方策として、1学部1学科とし、大学志願時における入学志願者の専門分野選択を幅広くし、6つのコースに分かれる専門教育開始を2年次以降とするとともに、その専門教育も専門性を指標とした教育カリキュラムを設定しつつ、他コース科目の履修をより柔軟にして、総合的で広範な教育成果の獲得を目指すものとした。

○設置の趣旨・目的の達成状況に関する統括評価・所見

教育課程等

人文学科の専任教員1人が平成25年8月に体調不良で、また平成26年3月に自己都合で1名が退職した。8月に退職した教員の担当する予定の科目は、他の専任教員や兼任教員が担当することとし、学生への周知を行ったので、授業運営には支障が生じなかった。平成26年4月にこれら2名の後任となる専任教員を配置することで、当初計画通り、平成26年度の授業は運営されている。また、教職課程等での必要教員数に対処するため、兼任教員1名を専任教員として配置し、授業運営を行っている。

地域の高齢者の方々の学び直し等にも対応して、平成25年度には『人間関係論』の授業を、また平成26年度には『宗教心理学』の授業を公開授業として行うなど、地域に根差した大学をめざすことにも力を注いでいる。

学生募集・入学者選抜等

学部内で、学生募集のための検討を重ね、主に次のような募集（広報）活動を行った。

人文学部創設30周年を記念したシンポジウム「大阪のインテリジェンス」を8月に、また、5月～11月には「人文の時」をテーマとして、合計6回の公開講座を開催するなど、人文学科の特色と教育目的を広く社会に伝えるための広報活動を併せ持ったイベントを行った。

また、学生募集支援システムでのデータ分析を行い、重点指定校の選定や、訪問高等学校の再選定、日本語学校への訪問方法の改善、さらには、模擬授業・出前授業等にも積極的に講師の派遣を行うなど、学部において学生募集への取組みを一層強化した。

入学者選抜に関しては、指定校制推薦入試やAO入試の合格者を対象に「チャレンジ奨

学生」の制度を設け、成績優秀者には授業料の減免を行うなど、経済的な負担の軽減策も取り入れ学生確保に向けた方策を立て、実行した。

しかし、残念ながら、平成 26 年度入試においても当初予定していた入学者数を確保することはできず、入学者は 69 人（うち留学生 28 人）に留まり、定員（90 人）の充足率は 76% となった。

人文学科の特徴である、専門教育の柔軟化、キャリア教育や主体的学修の強化に努め、汎用性と社会性をもつ人材の育成を推進し、学科の教育に対する社会の支持を高めることとするが、例年実施している新入生へのアンケート調査の結果を見ると、人文学科への入学は、平成 25 年度入学生と同様に、資格（教員免許、浄土真宗本願寺派教師資格、認定心理士、図書館司書等）の取得が可能なことが決め手となったと回答した学生が回答者の約 7 割おり、今後の募集活動においても、これらを視野に入れた広報手段を考えていくこととする。

なお、上記以外の事項については、ほぼ当初計画通りに運用がなされているが、次年度以降も、学年進行に従い、設置計画を確実に履行していきたいと考えている。